テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　サブクエスト

A REALM REBORN
FINAL FANTASY XIV
ONLINE
新生エオルゼア
ファイナルファンタジーXIV

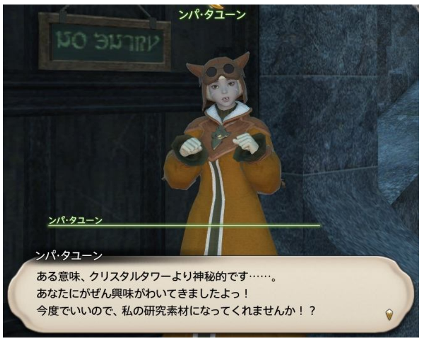
モードゥナ編

©2010ー2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

クリスタルタワーの謎を追って

ンパ・タユーン　：　私、クリスタルタワーの研究を専門にしています。5年前の第七霊災後に、突如出現した神秘の巨塔は、
今なお多くが謎に包まれたままなのです。
冒険者さんは、レヴナンツトールの西に結晶化した大地があるのは、ご存知でしょうか？
これまでの研究によれば、かの地には、クリスタルタワーの謎を解く重要な情報が眠っているはずなのです……。
それなのに！　クリスタルを調べようとすると、「ニクス」が襲ってきて、ちっとも調査が進まないのですよ！
ここまで言えば、冒険者さんにはおわかりですね！？　未来の学問とエオルゼアの発展と私の好奇心のため、
「ニクス」を倒してきてください！

ンパ・タユーン　：　もう「ニクス」を倒してきたのですか？　この辺りの魔物には、熟練の冒険者でさえ苦労するのに……。すす、すごいですっ！
ある意味、クリスタルタワーより神秘的です……。あなたにがぜん興味がわいてきましたよっ！
今度でいいので、私の研究素材になってくれませんか！？



ンパ·タユーン

ある意味、クリスタルタワーより神秘的です……。
あなたにがぜん興味がわいてきましたよっ！
今度でいいので、私の研究素材になってくれませんか！？

私のキャロットちゃん

アガンボルド　：　俺らレヴナンツトールで活動する冒険者にとって、最強にして最大の宿敵……それが、モルボルだ。
誰もが嫌い、憎むモルボルを、お前に倒してきてもらうぜ。そうさな……3匹ほど倒せば十分だろう。
……こいつは儀式さ。お前をレヴナンツトールの一員に迎えるためのな。まずは力試し、ちゃっちゃと片付けてこい！

アガンボルド　：　おう、モルボルを討伐できたみたいだな。だが安心するのはまだ早ぇ。
ここまでなら、もう何人もたどり着いてるんだからな。
次は、レヴナンツトールの冒険者の宿敵を相手にしてもらう。お前の地図に印をつけておいたから、そこへ向かえ。
……必ず生きて帰ってくるんだぜ！

アガンボルド　：　まさか、最強の敵「キャロットちゃん」を倒すとは……！　お前の力、認めないわけにはいかねぇな！
奴はかつて、物好きな貴族が愛玩用に飼っていたモルボルだ。先祖返りしたとかで飼い主のもとから逃げだし、
あのとおり凶暴化してたってわけさ。
舐めてかかって、死んじまった冒険者は数知れず。俺の尊敬していた冒険者も、こいつの息の臭さに引退を決めたほどだ……。
だが、それも今日で終わりさ。今日からお前は、レヴナンツトールの一員だ。いっしょに、この拠点を盛りあげていこうぜ！

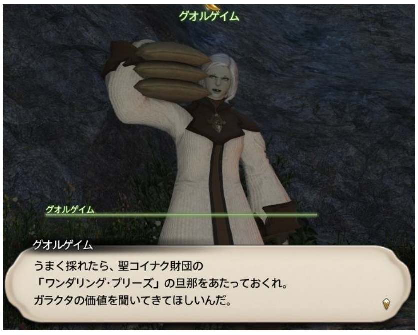
アガンボルド
アガンボルド

アガンボルド

舐めてかかって、死んじまった冒険者は数知れず。
俺の尊敬していた冒険者も、
こいつの息の臭さに引退を決めたほどだ……。

虹色の嘲笑

グオルゲイム　：　ここから東には、帝国の飛空戦艦の残骸が散らばっててね。まぁ、ほとんどがサビたクズ鉄みたいなモンなんだが、
たまに貴重な装甲材なんかが見つかるんだ。
こういうお宝を漁りに、この地に来る冒険者もいるくらいでさ。あたしも、ときたま漁りに行くんだよ。
あんた、暇なら手伝ってくれないかい？　「煤けた装甲板」を8つほど、採ってきてくれればいいさ。
うまく採れたら、聖コイナク財団の「ワンダリング・ブリーズ」の旦那をあたっておくれ。ガラクタの価値を聞いてきてほしいんだ。



うまく採れたら、聖コイナク財団の
「ワンダリング・ブリーズ」の旦那をあたっておくれ。
ガラクタの価値を聞いてきてほしいんだ。

ワンダリング・ブリーズ
ワンダリング・ブリーズ
ワンダリング・ブリーズ

これは「超硬サーメット」という帝国製の特殊合金だ。
エオルゼアでは精錬できない金属だな。

ワンダリング・ブリーズ　：　ああ、君か。私に用事でもあるのかね？
……これが何か知りたいと？　こんなところで、お目にかかるとは思わなかったな。
これは「超硬サーメット」という帝国製の特殊合金だ。エオルゼアでは精錬できない金属だな。
加工方法が判れば、各都市に流通させて、帝国との戦いも楽になるかもしれんが……。
せめて原材料が分かれば、今ある金属の質を向上できように。
……なんだ、確認だけか？　なるほど、レヴナンツトールのグオルゲイムの差し金か。
これは返そう、彼女には程々にするよう言っておいてくれ。

グオルゲイム　：　どうだった？　拾ったガラクタは、お宝だったかい？
……おお、すごいじゃないか。帝国製の特殊合金だったんだろ？　こりゃ、きっと高く売れるね！
……え、これがあればエオルゼアの金属が……？　あぁえぇと、小難しいことはわからないけど、
とにかく貴重な品だってことはわかったよ！
お前のおかげで、いいことを知れたよ！　もっと探してガッポリ稼がないとね！　ほら、分前だ。取っときな。
ガッポリ稼いで「ワンダリング・ブリーズ」の旦那にさっさと借金を返さないと！　やるよ～！

結晶樹

アガンボルド　：　そこの同業者、俺の頼みを聞いていかねぇか。ちっと「エクトプラズムの触媒」が必要なんだが、手を貸してほしいんだ。
手に入れる方法はこうだ……。まず、早霜峠で「プラズモイド」って魔物を倒して、「プラズモイドの触媒」を手に入れる。
次に、それを結晶化した樹に撒いて、しばらく待つと……　プラズモイドの触媒の持つ雷気に反応して、
結晶化した樹が雷を帯びるようになる。
するとどうだ、狙われているとも知らずに、「エクトプラズム」が寄ってくるんだ！
そいつを倒せば、目的の品が手に入るってわけさ。
……ほ、欲しい理由……だと？　あーその、細かいことはいいじゃないか。それじゃあ、よろしく頼んだぜ！

アガンボルド　：　お、おう、持ってきたかよ。そうっと渡せよな、そうっと……。
痛ってええええぇぇぇぇっっ！！　今、バチッと来た、バチッと！
……そうさ、これが理由ってやつだよ。俺はどうも体に雷を溜めこむ性質らしくてな。
寒いとこや雷を帯びたとこに行くと、すぐ感電しちまうんだ。
なのに、学者先生から依頼された仕事が、雷を帯びた「エクトプラズムの触媒」の入手でさぁ。
お前にゃ悪いが、手を借りたってわけさ……。

アガンボルド
アガンボルド
アガンボルド

痛ってええええぇぇぇぇぇっっ！！
今、バチッと来た、バチッと！

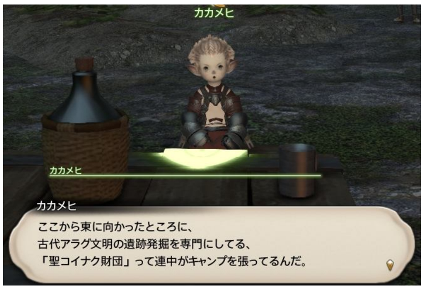
魂だけの存在

グオルゲイム　：　ここから西に行ったところに、「崩壊したキャンプ」があるんだが、知ってるかい？
そのキャンプ跡から荷物を回収し、ここまで持ち帰るのが、今のあたしの仕事でね。
でも……ちょっと最近つかれてきちまってさ。
悪いんだけど、手を貸してくれないかい？　この「スレッジハンマー」で「取り残された木箱」をこじ開けて、
中身を運んできてくれ。3つほどで十分さ。

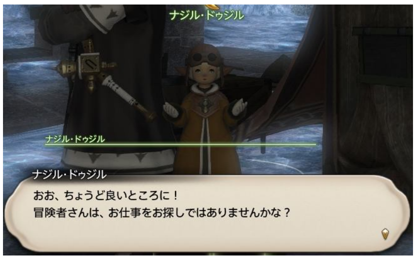
グオルゲイム　：　ああ、あんたか。ちゃんと集めてこれたかい？
悪かったね、こんな雑用を頼んじまって。でもねえ、あのキャンプ跡へ行くたび……つかれてさ。
霊災で落ちてきた火の玉のせいで、あんなになったけど、あそこは、もともとちゃんとした冒険者ギルドの拠点で
「キャンプ・レヴナンツトール」と呼ばれていたんだ。
そう、ここと同じ名前。「レヴナンツトール」……亡者の弔鐘だなんて、不吉な地名が、不幸を呼びこんじまったのかねぇ。
この新しい拠点が、あのキャンプ跡みたいな不幸に見舞われないよう祈るばかりだよ。
それにしても……　本当につかれるんだよねぇ、あのキャンプ跡に行くと。……つかれてたまらないんだよ。

聖コイナク財団

カカメヒ　：　お前、なかなか腕が立つらしいじゃないか。俺も冒険者なんだけどさ、同業者のよしみで儲け話を教えてやるよ。
ここから東に向かったところに、古代アラグ文明の遺跡発掘を専門にしてる、「聖コイナク財団」って連中がキャンプを張ってるんだ。
キャンプにいる「ナジル・ドゥジル」って奴に話せば、なにかしら、仕事にありつけると思うぜ。
だまされたと思ってさ、一度行ってみな。



ここから東に向かったところに、
古代アラグ文明の遺跡発掘を専門にしてる、
「聖コイナク財団」って連中がキャンプを張ってるんだ。



おお、ちょうど良いところに！
冒険者さんは、お仕事をお探しではありませんかな？

ナジル・ドゥジル　：　おお、ちょうど良いところに！　冒険者さんは、お仕事をお探しではありませんかな？
最近、我々は様々な問題に見舞われておりましてな、貴方のような方に、手助けをして頂きたいのですよ。
お互いに利はあると思うのですが……いかがですかな？

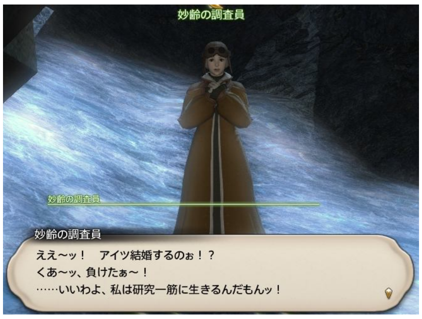
便りはるばる

ナジル・ドゥジル　：　「聖コイナク財団」は、各都市から専門家が集う、国際的な学術研究機関でしてな。
そのため、ここにいる調査員たちは、故郷を離れて、単身、この調査地に赴任している者たちばかり。
寂しい思いをしている者も多いのですよ。
そんな中、家族や友人からの手紙は、発掘調査で疲れた心と体を癒す、何よりの薬……。
冒険者さん、雑務で申し訳ないが、レヴナンツトールより届いたこの手紙を、調査員たちに配達していただけますかな？

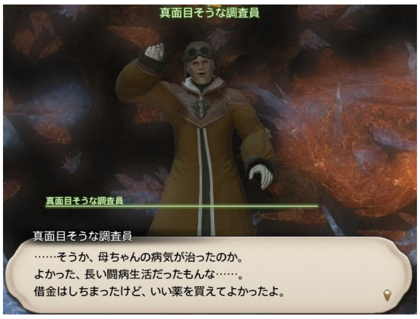
妙齢の調査員　：　あら、手紙の配達ね。冒険者さん、ごくろうさま。
……あら、学舎時代の友人からだわ。いったい何かしら？
ええ～ッ！　アイツ結婚するのぉ！？　くあ～ッ、負けたぁ～！　……いいわよ、私は研究一筋に生きるんだもんッ！

真面目そうな調査員　：　手紙だって？　珍しいな。今までもらったことないのに……。
……田舎の親父から！？　ま、まさか母ちゃんに何かあったのか？
……そうか、母ちゃんの病気が治ったのか。よかった、長い闘病生活だったもんな……。
借金はしちまったけど、いい薬を買えてよかったよ。

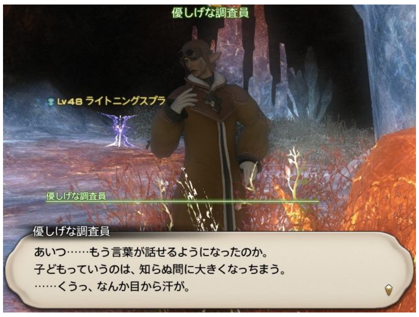
優しげな調査員　：　待っていたよ、久しぶりの手紙だ。グリダニアに残してきた家族からかな？
おお、やはり家族からだ。……なになに？
あいつ……もう言葉が話せるようになったのか。子どもっていうのは、知らぬ間に大きくなっちまう。
……くうっ、なんか目から汗が。


妙齢の調査員
妙齢の調査員

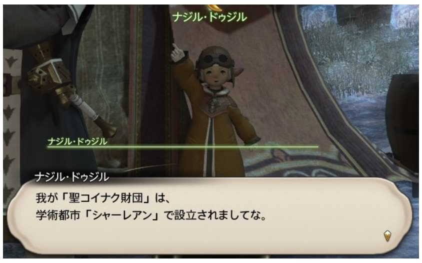
妙齢の調査員
ええ～ッ！　アイツ結婚するのぉ！？
くあ～ッ、負けたぁ～！
……いいわよ、私は研究一筋に生きるんだもんッ！


真面目そうな調査員
真面目そうな調査員

真面目そうな調査員
……そうか、母ちゃんの病気が治ったのか。
よかった、長い闘病生活だったもんな……。
借金はしちまったけど、いい薬を買えてよかったよ。


優しげな調査員
Lv48 ライトニングスプラ
優しげな調査員

優しげな調査員
あいつ……もう言葉が話せるようになったのか。
子どもっていうのは、知らぬ間に大きくなっちまう。
……くうっ、なんか目から汗が。


ナジル・ドゥジル
ナジル・ドゥジル

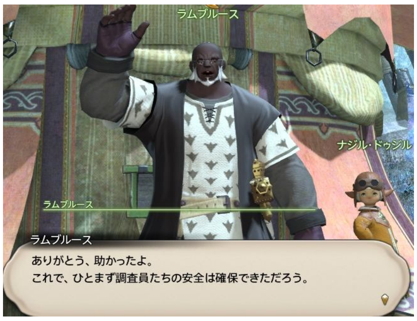
ナジル・ドゥジル
我が「聖コイナク財団」は、
学術都市「シャーレアン」で設立されましてな。

ナジル・ドゥジル ：ご苦労さまでした、冒険者さん。どんな内容の手紙であろうとも、受け取った調査員は、みんな喜んでおったことでしょう。
我が「聖コイナク財団」は、学術都市「シャーレアン」で設立されましてな。
今は、シャーレアン出身の博物学者、ラムブルースさん主導のもと、古代アラグ文明の遺跡を調査しておるのですよ。

ラムブルースからの依頼

ラムブルース ：ここから北のクリスタル地帯に魔物が出没するようなんだ。実際に、何人かの調査員が襲われて困っているんだよ。
このまま被害が増えれば、発掘調査に影響が出るだろう。調査地の責任者として、放っておくわけにはいかない。
すまないが「ヒッポグリフ」を討伐してくれないか。

ラムブルース ：ありがとう、助かったよ。これで、ひとまず調査員たちの安全は確保できただろう。
古代アラグ文明の遺跡は、まさに失われた叡智の結晶さ。彼らは、あの「クリスタルタワー」を造ったとされている。
この辺りの遺跡は、クリスタルタワーの建築を行った作業員とその家族の居住区跡ではないかと考えているのだ。
あの巨塔の謎は、ほとんど解明していないが、この地を調査することで、何かが解るかもしれない。
そう、期待しているのだよ。

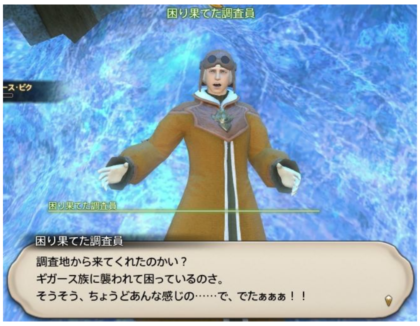

ラムブルース
ナジル・ドゥジル
ラムブルース

ラムブルース
ありがとう、助かったよ。
これで、ひとまず調査員たちの安全は確保できただろう。

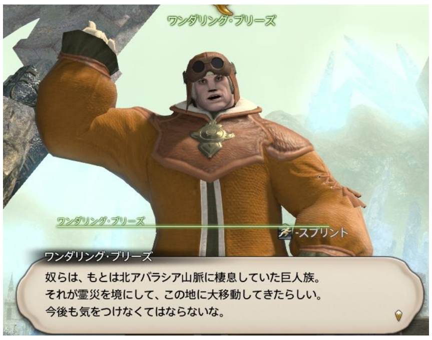
迫る巨人族

ワンダリング・ブリーズ　：　南に向かった調査隊が「ギガース族」に調査を妨害されているという報告が入ってきた。
深刻な被害が出る前に、様子を見てきてくれないか。

困り果てた調査員　：　調査地から来てくれたのかい？　ギガース族に襲われて困っているのさ。
そうそう、ちょうどあんな感じの……で、でたぁぁぁ！！



困り果てた調査員
調査地から来てくれたのかい？
ギガース族に襲われて困っているのさ。
そうそう、ちょうどあんな感じの……で、でたぁぁぁ！！



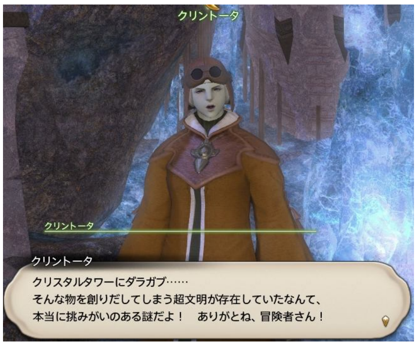
ワンダリング・ブリーズ
奴らは、もとは北アバラシア山脈に棲息していた巨人族。
それが霊災を境にして、この地に大移動してきたらしい。
今後も気をつけなくてはならないな。

ワンダリング・ブリーズ　：　先ほど、別の調査員から、お前が撃退したとの報告をもらったところだ。ご苦労だったな。
奴らは、もとは北アバラシア山脈に棲息していた巨人族。それが霊災を境にして、この地に大移動してきたらしい。
今後も気をつけなくてはならないな。

悪鬼と月の衛星

クリントータ　：　ここの調査員たちは、みんな遺跡発掘に夢中だよ。……でもね、実はボクには秘密の目的があるんだ。
ボクが本当に知りたいのは月の衛星「ダラガブ」のことさ。
5年前、赤く輝きはじめたと思う間に、巨大化して落ちてきたダラガブ……。挑むに値する研究課題だとは思わないかい？
そこで、破片のひとつが落着した「唄う裂谷」で発掘調査を進めていたんだけど……その遺物のひとつを、
「エルダー・ハパリット」に奪われてしまったんだ。
お願いだよ、冒険者さん。「エルダー・ハパリット」を倒して、「ダラガブの小片」を取り返してくれないかな？
ただ、非常に大柄でどう猛な奴だからね……。この「スパイス爆弾」を使ってよ。
妖異が嫌う刺激物をたっぷり詰めこんであるからさ。

クリントータ　：　お帰り、冒険者さん。……ダラガブの遺物は取り戻せたかい？
おお、これは貴重な標本だよ！　もっと詳しく調べてみないと解らないことも多いけど、構成素材ひとつ取っても、実に興味深い！
見てごらん、この遺物の素材は、周辺のアラグ帝国の遺跡で発見されたものとそっくりだ。
ダラガブとアラグ文明が創りだした人工天体……　そういう学説もあるんだけど、これは重要な証拠になるね。
クリスタルタワーにダラガブ……　そんな物を創りだしてしまう超文明が存在していたなんて、
本当に挑みがいのある謎だよ！　ありがとね、冒険者さん！



クリントータ
クリスタルタワーにダラガブ……
そんな物を創りだしてしまう超文明が存在していたなんて、
本当に挑みがいのある謎だよ！　ありがとね、冒険者さん！

巨人たちの聖地

ワンダリング・ブリーズ　：　先ほどの調査隊なのだが、どうやらギガース族どもに襲われたときに、調査資料を奪われてしまっていたらしい。
なぜ、ギガース族に調査資料を奪う必要があったのか……　調査員たちの安全、そして円滑な調査活動のためにも、
奴らの文化や行動原理を探らねばなるまい。
ギガース族を4体ほど討伐して、彼らの持ち物を持ってきてもらえないだろうか。

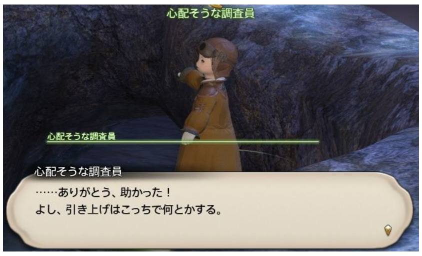
ワンダリング・ブリーズ　：　……どうだった？　何か奴らを知ることができる研究材料は、手に入ったか？
……ふむ、なんの変哲もないクリスタルのようだが……　いや、こっちに人為的に削った形跡があるぞ。
……すると、これは何かの彫像か？
なるほどな、この形状からすると、「クリスタルタワー」を模したものに違いない。
……ギガース族が「聖地がどうの」と叫んでいた、という目撃情報があったのだが……合点がいったぞ。
奴らは、クリスタルタワーを聖地として崇めているのだろう。それならば、霊災後の大移動も理解できる。
君、この「クリスタルタワーの彫像」を、奴らの出現しそうな場所に設置し、様子を見てくれないか。
おそらく、それで奴らの文化を垣間見れるはずだ。

ワンダリング・ブリーズ　：　……どうだった？　奴らは何か、興味深い行動を見せたか？
……これは、前回の襲撃時に紛失したとの報告があった、「奪われた調査記録」ではないか。
なるほど、親玉らしきギガース族が持っていたと。
こうして調査記録から、クリスタルタワーの模写図を破り、保管していたとなると……
巨塔を「聖地」と考えているのは間違いないな。
……ギガース族は、巨人族の中でも比較的知恵があり、支配者階級にあたるといわれている。
知恵が回るぶん、普通の魔物以上に手ごわい存在だ。この先の調査でも十分に気をつけねばなるまい。
ありがとう、冒険者。いろいろと助かったぞ。

足元にはご用心

ナジル・ドゥジル　：　冒険者さん、よいところに！　湖畔の発掘に向かった調査員が、断崖を滑り落ちて、怪我をしてしまったらしいのですよ。
救助に向かわねばなりませんが、そもそも、手元に薬品類が不足しておりましてな。
このままでは、まともに治療することもできません。
冒険者さん、この「丈夫な荒縄」を持っていき、救助の手助けをしていただけますかな？
そして「レヴナンツトール」の「カカメヒ」さんに、薬品類を届けるように伝えてほしいのです。
冒険者さんには、お世話になりました。もうひと働きお願いできれば幸いですぞ。

心配そうな調査員　：　おお、救助の者か、よく来てくれた！　どうも、この穴から下に滑り落ちて、足を折っちまったらしい。
手当てするにしろどこかに運ぶにしろ、まずは「丈夫な荒縄」で引き上げてやらないと……。何か持っていないか？
……ありがとう、助かった！　よし、引き上げはこっちで何とかする。
そのまま「レヴナンツトール」に向かって、薬品類の手配を頼む！



心配そうな調査員
……ありがとう、助かった！
よし、引き上げはこっちで何とかする。

カカメヒ
よう、聖コイナク財団では仕事にありつけたかい？
……ふむ、薬品類が足らないんだな？

カカメヒ　：　よう、聖コイナク財団では仕事にありつけたかい？　……ふむ、薬品類が足らないんだな？
任せとけ、急いで手配してやるぜ。連絡ご苦労さん！

それは男の夢

グオルゲイム ： 迷霧湿原に棲む「マッドパピー」から採れる、「マッドパピーの肝」は、幻の薬として、金持ち連中に法外な値段で売れるんだ。
この薬を手に入れるためだけに、わざわざこの地を訪れる冒険者もいるくらいでね。……もとは、あたしもそのひとりってわけさ。
あんたも同業者だろう？　よければ手伝っておくれよ。「マッドパピーの肝」を5つほど、持ってきてくれればいいからさ。

グオルゲイム ： よう、どうだい？　幻の薬は手に入ったかい？
……ふむふむ、ちゃぁんと取ってこれたようだね。ほら、分前だ。取っときな。
……いったい、何の効力があるのかって？　アハハ、バカな男どもが大金を払ってまで欲しい薬なんて、ひとつしかないだろ？

沼の掘り出し物

アガンボルド ： 湿林に自生する「タングルスギナモの根」は、煎じて飲めば腹下しに効き、傷に塗れば化のう止めになる。
ここらの冒険者必携の、ありがたい万能薬ってわけさ。
普段は俺も切らさないように持ち歩いているんだが、この間、聖コイナク調査団で仕事を請け負った際に、
仲間に分けてやったら、手持ちが少なくなっちまってな。
お前、よければ採ってきてくれないか？　「タングルスギナモの根」を8つほどだ。よろしく頼んだぜ。

アガンボルド ： よう、あんた。頼んでいたものは採ってきてくれたかい？
……そう、これだ。この辺りを根城にする冒険者にゃ、こいつは必需品さ。ありがとうよ、助かったぜ。

ギルドリーヴ開放「聖コイナク財団の調査地」

ク・レータイ ： そこの冒険者、仕事を探してないかい？　耳寄りな情報があるんだ、聞いていきなよ。
おっと、アタシは冒険者ギルドのク・レータイ。「ギルドリーヴ」の発行を請け負っている者さ。
この「聖コイナク財団の調査地」における、魔物退治や物資の調達のような日常的な依頼を、
「ギルドリーヴ」として冒険者に斡旋してるのさ。
ただ、仕事を斡旋する前に……、まずは、君の実力ってやつを見てみたいんだ。
どのくらい「使える」のか、アタシは知らないしさ。
この依頼を見てくれる？　これは、アタシが扱っている依頼のひとつなんだけど……
試しにこのリーヴを、こなしてみてくれないかい？
やってみるんだね、じゃあこのリーヴを受けてみて。ニクス種のギガントード「ウィンター・ニクス」から、
生体サンプルを採取してくる仕事さ。
「ウィンター・ニクス」を十分に弱らせてからでないと、懐柔できないから、そのつもりでね。
それじゃあ、頑張ってきなよ。

ク・レータイ ： おかえり、頑張ってくれたみたいだね。じゃあ、報酬をあげるから受け取りな。
うんうん、アタシの見立てに間違いはなかったね。君なら文句なし、どんな仕事でも任せられそうだよ。
それじゃ、これからよろしく頼んだよ！